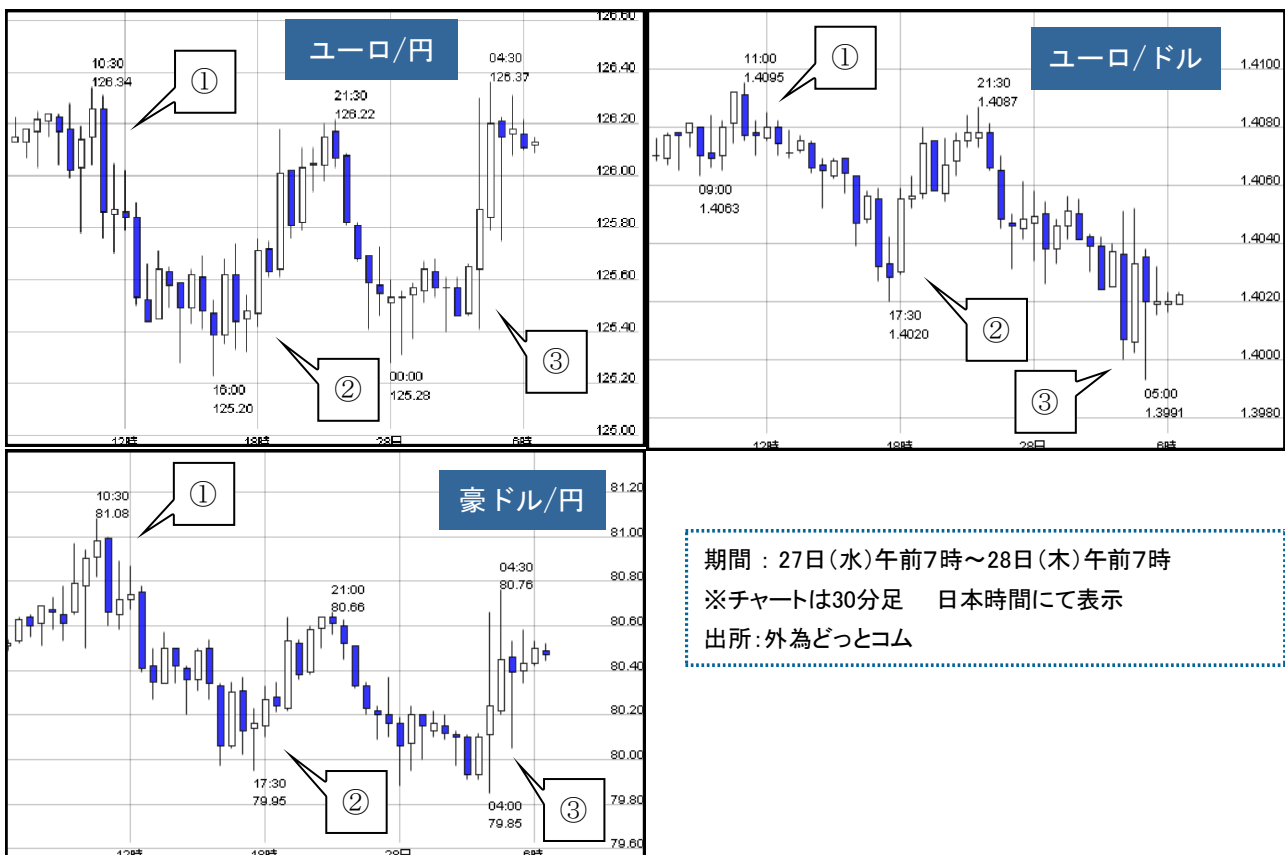


1月28日(木曜日)
ユーロ/円
ユーロ/ドル
豪ドル/円

ユーロ/ドル、ほぼ6カ月半ぶり1.40ドル割れ
豪ドル/円、底固めできるか

27日(水)の主な推移



期間：27日(水)午前7時～28日(木)午前7時
※チャートは30分足 日本時間にて表示
出所：外為どっとコム

- ① 豪州第4四半期の消費者物価指数が、前期比+ 0.5%、前年比+ 2.1%と、市場予想を小幅に上回ったことで豪州中銀の2月利上げ観測がさらに強まり、発表直後に豪ドル円が上昇したが81円付近では伸び悩んだ。正午前から夕方にかけては、ギリシャ財政懸念を背景にユーロ/円主導で円が主要通貨に対して上昇した。
- ② 欧州市場序盤でユーロ/ドルはほぼ6カ月ぶり安値1.4020ドルを記録したが、1.40ドル手前水準では底堅く推移し、その後反発。これに伴い、ユーロ/円、豪ドル/円も反発した。
- ③ FOMC(米連邦公開市場委員会)声明では、米国経済の回復基調が続いているとの見解が示され、緊急支援措置や資産買い取りプログラムを予定通り完了させる意向が示された。ただ、カンザスシティ地区連銀のホーニグ総裁が「異例の低金利を長期間据え置く」との文言を削除し、早期金融引き締め的重要性を主張したことで、米金融政策の引き締め開始時期が早まるとの観測が強まり、ユーロ/ドルは一時ほぼ6カ月半ぶりに1.40ドル台を割り込んだ。FOMC 声明発表後は安心感からリスクを取ることに積極的となり、米株価は上昇し、円が主要通貨に対して下落(ユーロ/円、豪ドル/円は上昇)した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

ユーロ/ドル、ユーロ/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから、円売り、高金利通貨買いの流れ(ユーロ/円上昇要因)
- ・主要新興国(BRICs)を中心にドル離れに動くとの観測(ユーロ上昇要因)
- ・米低金利政策長期化観測に伴う米長期金利の低下(ユーロ/ドル上昇要因)
- ・米景気回復に伴う米長期金利の上昇(ユーロ/ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円の買い戻しの流れ(ユーロ/円下落要因)

豪ドル/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから高金利通貨買いの流れ(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪利上げ観測に伴う日豪金利差の拡大(豪ドル/円上昇要因)
- ・株価、資源価格の上昇(豪ドル/円上昇要因)
- ・日銀による追加金融緩和観測(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪州中銀による利上げ観測の後退(豪ドル下落要因)
- ・株価、資源価格の下落(豪ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円の買い戻しの流れ(豪ドル下落要因)

本日の見通し

本日の予想レンジ

ユーロ/ドル: 1.3880-1.4130ドル
ユーロ/円 : 125.30-127.30円

本日の予想レンジ

豪ドル/円: 79.60-81.50円

ユーロ/ドルは下値を模索する展開が続くそう。FOMCでカンザスシティ地区連銀総裁が早期金融引き締めを主張したことで、市場では年内利上げ期待が強まっており、ユーロ/ドルは1.40ドルライン割れを再び試す展開が予想される。日本時間28日午前のオバマ米大統領の一般教書演説での新金融規制案についての言及が相場の不透明要因だ。

ユーロ/円は126円台前半を中心にもみ合う展開となりそう。ユーロは対ドルでやや弱い推移が予想されるが、ドル/円の底堅さが増しているため、まずは明確な方向感に乏しい展開が予想される。

豪ドル/円は80円台中盤を中心にもみ合う展開が続くそう。昨日発表された豪州第4四半期消費者物価指数は市場予想を上回ったが、豪州中銀の2月利上げはすでにかかなりの程度織り込まれていたため、豪ドル/円をさらに押し上げる力には乏しい。ただ、中国の金融引き締めや米金融新規制案によるショックが和らぎつつあることから、豪ドル/円は80円ラインの底固さが確認できれば、再び上昇の機運が強まる可能性もあるだろう。

本日は、オバマ米大統領の一般教書演説を受けた主要国株価の推移がカギとなるだろう。

本日から明朝の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 日本時間での表示

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
1/28(木)	11:00	◎	(米)オバマ大統領 一般教書演説	—	—
	17:55	○	(独)1月失業率	8.1%	8.2%
	22:30	○	(米)12月耐久財受注[前月比]	+0.2%	+2.0%
	22:30	○	(米)1/24までの週の新規失業保険申請件数	48.2万件	45.0万件
	8:30	○	(日)12月全国消費者物価指数[前年比:除生鮮]	-1.7%	-1.3%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。